

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：13103

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18596

研究課題名（和文）日本人の戦争観とアニメ・特撮 学術的研究方法のプラットフォーム構築を目指して

研究課題名（英文）Japanese Views of War and Anime/Special Effects: Aiming to Build a Platform for Academic Research Methods

研究代表者

小島 伸之 (Kojima, Nobuyuki)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：00449258

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の主たる成果として、戦争を背景・舞台としているアニメの網羅的データベースの作成（公開予定：現在最終調整中）、アニメ・特撮作品の視聴経験が視聴者の戦争観に与える影響についてのWeb調査（研究成果については今後公表予定）がある。
以上に加えて、日本人の戦争観とアニメ・特撮に関する学術成果として、共編著1点、分担執筆1点、学会報告2回、その他研究会での研究報告を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第二次世界大戦後80年を迎えようとしている日本において、戦争や平和に関する社会意識は、戦争に関する直接的経験を通じてではなく、メディア・教育などを通じた間接的情報の影響を通じて形成されていると考えられる。先行研究においては、平和教育・ミリタリーカルチャーなどが着目されてきたが、本研究はアニメ・特撮作品に注目し、それらがどのように戦争を描いてきたのか、それらの作品がどのように現実の戦争の影響を受けているのかについて明らかにすることを試みた。本研究において公開に向けた作業を行った戦争アニメデータベースは、今後において研究のプラットフォームとしての役割を果たすことが期待できる。

研究成果の概要（英文）：The main results of this research are: 1) the creation of a comprehensive database of anime set against or taking place against the backdrop of war (scheduled for release: currently in final adjustments), and 2) a web survey on the impact of watching anime and tokusatsu works on viewers' views of war (research results will be announced in the future).

In addition to the above, we have also published one co-authored book, one book chapter, two academic conference papers, and research reports at other study groups as academic results related to Japanese views of war and anime/special effects.

研究分野：社会学、日本近代法史、憲法

キーワード：戦争観 アニメ 特撮 データベース 社会意識 平和観 データベース

1. 研究開始当初の背景

戦後世代の日本人にとって、戦争(内戦等含む広義の意味で用いる。以下同じ)に関する知見は、学校教育・ニュース・ノンフィクション・劇作品などの間接的知見を通じて与えられ、それらの間接的知見は人々の戦争観に少なからぬ影響を与えていると考えられる。近年では、選挙結果や世論調査などから若者が「右傾化」「保守化」しているともされ、こうした状況の背景・要因などについて学術的な検討がなされつつある状況にある。

また、2001年の「対テロ戦争」以降、現実の戦争にも無人兵器の導入など質的な変化が生じ、アニメ・特撮の戦争に近づくような状況も見られる。

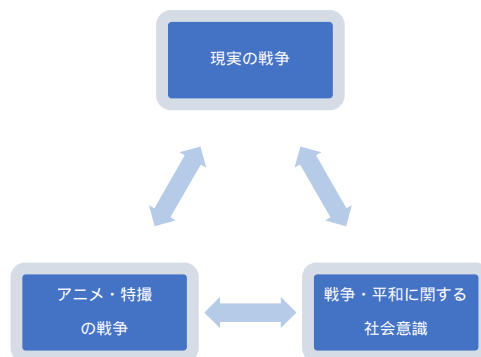
本研究は、戦争に関する間接的知見のうち、アニメ・特撮作品に注目する。アニメ・特撮作品には戦争を背景・主題とするものが多く、戦争の描かれ方も多様である。アニメ・特撮作品における戦争の描かれ方は、それ自身が戦後日本における戦争観の反映であるとともに、戦後世代とりわけ1960年代以降生まれの日本人の戦争や平和に関する社会意識の形成にとって、これらのアニメ・特撮が影響を与えているという相互規定的関係にあると考えられる。一方、それらの作品の戦争観を客観的・総合的に分析する学術的手法は十分に確立していない。

2. 研究の目的

戦後世代の多くの日本人にとって、戦争に関する知見は、学校教育・ニュース・ノンフィクション・劇作品などを通じて与えられ、それらは戦争や平和に関する社会意識の形成に少なからぬ影響を与えている。それらの間接的知見のうち、本研究はアニメ・特撮作品に注目する。

アニメ・特撮作品には戦争を背景とするものが多くその描かれ方も多様であるが、それらの作品の戦争観を総合的客観的に分析する学術手法はまだ確立していない状況にある。

以上を通じて、アニメ・特撮作品の学術的分析の方法論的プラットフォームを提示し、アニメ・特撮作品及びその主題歌における戦争観を明らかにし、アニメ・特撮作品が人々の戦争観に影響を与えているか否かを明らかにし、さらに、今日の日本人の戦争に関する社会意識の形成の学術的解明という課題へ向けた手がかりを得ること、が本研究の目的である。



3. 研究の方法

本研究は、1960年代から2010年代までの、(1)アニメ・特撮作品における戦争の描かれ方の分析、(2)アニメ・特撮作品の主題歌の歌詞分析、(3)質問紙調査の三つによって構成される。

(1) アニメ・特撮作品における戦争の描かれ方の分析

アニメ・特撮作品における戦争の描かれ方を客観的分析手法により、総合的・通史的に分析する。具体的には、戦争の描かれ方に関する要素(主たる対立構図、構造対立の要因、戦いの形態、戦争・紛争を「陰で操る」勢力・人物と程度、大量破壊兵器と使用陣営、国際的安全保障組織、戦争・紛争の開始と物語の開始時期、主人公の脱走・陣営移動、「敵を殺さない」で戦うか、最終局面での主人公の動機、戦争・紛争終結への主人公の寄与度、主対立構図からの主人公たちの距離等)を作品毎に抽出し、戦争の描かれ方に関する一覧表を作成する。それに基づく類型化や時代的变化などの分析結果を、諸学問領域の先行研究の成果(社会学・歴史学(戦後日本の戦争観と政治・メディア論等)、政治学・国際法・法哲学(勢力均衡論・正戦論・戦争違法化論等)、平和教育学等)と照らし合わせ総合的・通史的に分析する。この方法により、主観的考察から距離をとり世界観の異なる大量の作品を事例とした客観的分析が可能となる。



(2) アニメ・特撮作品の主題歌の歌詞分析

戦争を描いたアニメ・特撮作品の主題歌の歌詞をテキストマイニングによって分析する。アニメ・特撮作品の主題歌歌詞中の戦争に関する要素(正義、敵、戦いの目的、守るべきもの、平和の位置づけ等)に関する単語を選定し、膨大な文書情報を分析できるテキストマイニングの手法

により定量的にアニメ・特撮作品の主題歌に関する戦争観とその変遷を通史的に分析する。

(3) 質問紙調査

本研究の視野の延長線上には、直接体験としては戦争を経験していない現在のほとんどの日本人の戦争に関する社会意識がどのように形成されているのかについて学術的知見を得るという目標がある。そうした長期的目標への第一歩として、複数の大学の大学生 1000 人程度を対象とし、対象者の戦争観と、それにアニメ・特撮などのサブカルチャーが影響を与えているのかが、与えているとすればどのような点についてなのかを明らかにする。

4. 研究成果

(1) 戦争を背景・舞台としたアニメ作品データベース

1960 2020 年代までの戦争を舞台・背景としているアニメ約 1300 作品について、「作品名」「制作」「戦争形態の概要」「戦争種別」「戦争の終結」「主人公の所属(所属組織の性格等)」「主人公の性別」「主人公の種族」「主人公の属性」などの項目設定を行い、データベースの入力作業を完了した。

作品の選定と項目の内容については、一般社団法人日本動画協会のデータベース「アニメ大全」掲載の全作品から戦争に関するアニメを抽出したうえで、各作品の作品公式 HP 等から情報を得る形で確認の上作業を行った。

データベースについては、現在最終的な確認作業を行っており、今後、インターネット公開する予定である。

作品名	戦争(国家間)	膠着・未決着	特殊部隊「wZERO」	男性	人類
ユーロ・ブリタニアとの戦い	戦争(国家間)	膠着・未決着	特殊部隊「wZERO」	男性	人類
異世界軍事介入アニメ	その他・不明	主人公側勝利	自衛隊	男性	人類
異世界転生国作りモノ	戦争(国家間)	主人公側勝利	ナザリック	男性	人類
魔甲蟲との戦い	非対称戦争	主人公側勝利	E601小隊	男性	人類
大筒木一族との戦い	戦争(国家間)	主人公側勝利	木の葉の里	男性	人類
未来都市セントラル47を舞台にした戦い	非公的組織間軍事紛争	主人公側勝利	回収屋	男性	人類
未知の生物BETAを恐る戦い	内戦(国内における軍事勢力対軍事勢力)	主人公側勝利	東ドイツ陸軍第666戦術機中隊「黒の騎士団」	男性	人類
ユーロ・ブリタニアとの戦い	戦争(国家間)	膠着・未決着	特殊部隊「wZERO」	男性	人類
魔甲蟲との戦い	非対称戦争	膠着・未決着	E601小隊	男性	人類

(2) アニメ・特撮作品の主題歌歌詞内容の時代的変遷

1970 年代から 2019 年までの「戦い」を題材にしたアニメ・特撮作品のオープニング曲・エンディング曲の歌詞の全体的特徴と年代による変遷を明らかにすることを試みた。歌詞内容の年代の変遷をより明確にするため、分析対象として、シリーズとして長期間継続的に作品が制作されている仮面ライダーシリーズ・スーパー戦隊シリーズ(特撮:全 178 曲) 機動戦士ガンダムシリーズと超時空要塞マクロスシリーズ(アニメ:全 118 曲)を選び、また、機動戦士ガンダムシリーズの歌詞の同時代的特徴を明らかにするために 1970 年代の巨大ロボットアニメ(全 51 曲)も対象とした。

分析の結果、全体的傾向として「夢」「心」「愛」「守る」「力」などが一貫して頻出語となっていること、1970 年代に多く使われていた「戦い・勝利」に関する語が 80 年代以降半減していること、1980 年代以降「希望」「願い」などの語が増加する傾向にあること、オープニング曲、エンディング曲には頻出語等の差異が特段見られないこと、が明らかとなった。(「日本におけるアニメ・特撮ソングの歌詞の特徴と変遷(第 92 回日本社会学会大会、研究法・調査法(2))」)

(3) アニメ・特撮の視聴経験が戦争観に与える影響についての Web 調査

アニメ・特撮作品の視聴経験が戦争観に与える影響について、Web 調査を実施した(2024 年 3 月)。基本的属性、アニメ・特撮の視聴経験、抽象的戦争観・平和観、具体的各戦争に対する意見・立場、政治的傾向などについての質問を設定し、アニメ・特撮に関心のあるグループとアニメ・特撮に関心の薄いグループをサンプリングし、計 1089 人(関心あり 654 人、関心薄い 435 人)の回答を得た。調査結果は現在分析中であり、今後研究成果の公表を行っていく予定である。

SQ7.
あなたの戦争や平和に対する考え方に、次のA~Jのメディアや出来事などはどの程度の影響を与えていますか。
A~Jのそれぞれについて1~4からひとつ選んでください。

	1:大きな影響を与えている	2:それなりに影響を与えている	3:あまり影響を与えていない	4:ほとんど影響を与えていない
A:アニメ・特撮作品	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
B:学校教育(授業、平和教育、先生の話など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
C:インターネットの情報(SNS、webサイト、ブログ記事、YouTubeなどの動画共有サイト)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
D:TVニュース・ワイドショー・ドキュメンタリー・映画・ドラマなどの映像媒体(アニメ・特撮作品以外)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
E:マンガ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
F:ゲーム	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
G:新聞・雑誌・小説などの紙媒体(上記E以外)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
H:戦争経験者の体験談(上記E以外)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
I:他の人との対話・議論(上記B、H以外)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
J:ロシア・ウクライナ戦争の勃発など、近年の国際情勢の変化	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(4) アニメ作品において描かれる戦争表象の変化

巨大ロボットアニメというジャンルにおける代表的なシリーズ作品である機動戦士ガンダムシリーズを事例に、そこで描かれる戦争表象について分析を行った。

機動戦士ガンダムシリーズにおける戦争の位置づけの変化

第一作『機動戦士ガンダム』(1979年)における戦争表象においては、一般的に指摘されてきた「正義と正義の戦い」として戦争が描かれている特徴のほか、戦争の個人に対する圧倒的拘束力を前提に、戦争に対する個人レベルのアクターの影響力が小さく描かれている特徴が見いだせる。その後の後継作品においては、戦争の対立関係が複雑化、流動化する傾向が見いだせるほか、登場人物に対する所属組織・集団(の背後にある利害対立)の拘束力から距離を取り、相対的に自由に行動する様相が描かれる傾向が見られた。それに伴って、1990年代半ば以降の作品においては、物語の展開に応じて、また基本設定上、作品中に生じている「戦争を止めるための戦い」が描かれることが多くなり、敵は利害対立の相手ではなく「戦争」そのものであるという表象が見られる(小島伸之「巨大ロボットと戦争 『機動戦士ガンダム』の脱ノ再神話化」池田太臣・木村至誠・小島伸之編『巨大ロボットの社会学』法律文化社、2019年)。こうした変化は、冷戦終結などの国際情勢の変化の影響が考えられ、また、戦後の平和教育における主流の価値観がアニメ作品にも、強く影響を与えるようになってきている状況が推測される。

太平洋戦争及びそれを基にしたミリタリーカルチャーと『機動戦士ガンダム』の関係

『機動戦士ガンダム』(1979年)は、先行研究・評論において『宇宙戦艦ヤマト』(1974年)との対比において、その戦争表象が太平洋戦争と断絶していることが指摘されてきた。しかし、戦争表象を、関連するデザインや名称のモチーフという「表層」と、作品中の戦争の展開などの「深層」に分けて分析した結果、『機動戦士ガンダム』は戦争表象の「表層」においては太平洋戦争との断絶が確かにみられるものの、戦争表象の「深層」においては、密接に太平洋戦争と関連していることを明らかにした。また、作品中の戦争表象が太平洋戦争を想起させるとして、感動や批判などエモーショナルな反応が社会からなされた『宇宙戦艦ヤマト』に比して、一部の視聴者が『機動戦士ガンダム』の戦争表象が太平洋戦争と関連していると気づいていたにもかかわらず、エモーショナルな受け止め方をされなかつた理由について考察し、1960年代から1970年代にかけてブームとなっていた第二次世界大戦を扱った「戦記物」(ミリタリーカルチャー)が、戦争に関する「教養」となって、作中の戦争の勝敗を「客観的」に把握させたことが原因であることを明らかにした。(小島伸之「『機動戦士ガンダム』と太平洋戦争 戦争表象の深層と主人公のトラウマ」森茂樹・川口茂雄編『戦いとトラウマのアニメ表象史「アトム」から「まどかマギカ」以後へ』日本評論社、2023年)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小島伸之
2. 発表標題 日本のアニメ・特撮作品における戦争 時系列的・ジャンル横断的比較検討
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小島伸之
2. 発表標題 日本におけるアニメ・特撮ソングの歌詞の特徴と変遷
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 森茂起、東園子、足立加勇、荒木菜穂、アルト・ヨアヒム、植朗子、上尾真道、加藤之敬、木下雅博、小島伸之、斎藤環、佐野明子、西岡亜紀、藤津亮太、森年恵、雪村まゆみ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 -
3. 書名 戦い と トラウマ のアニメ表象史	

1. 著者名 池田 太臣、木村 至聖、小島 伸之、レナト・リベラ・ルスカ、荒木 菜穂、菅 浩二、松井 広志、塩谷 昌之、岡本 健	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 222
3. 書名 巨大ロボットの社会学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

アニメに関する社会学的研究を行っている若手研究者を中心として基本的に毎月1回開催されている「アニメーションに関する学術研究会」に参加して、研究報告及びWeb調査に向けた質問項目の検討の機会としたほか、研究に関する人的ネットワークの構築を行った。
 また、戦争に関するアニメのデータベース作成、およびWeb調査の実施に際して、研究協力者5名の協力の下、15回の研究会を実施した。
 また、本科研の研究成果の一つを寄稿した『 戦い と ト라우マ のアニメ表象史』について、上智大学文学部哲学科主催で合評会が開催され（2024年3月3日、於上智大学）、著者の一人として表邪に対するリプライを行った。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	松野 智章 (Mtsuno Tomoaki) (20723662)	東洋大学・東洋学研究所・客員研究員 (32663)	
研究協力者	水島 淳 (Mizushima Jun)	日本健康医療専門学校・非常勤講師	
研究協力者	稗田 朱花 (Hieda Ayaka)		フリーライター
研究協力者	石井 慶太 (Ishii Keita)	東洋大学・井上円了哲学センター・研究助手 (32663)	
研究協力者	石神 郁馬 (Ishigami Ikuma)		軍事研究家

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------